

令和4年1月5日 メルボルン交流抄

### ディラン・アルコット選手

車いすテニス（クアード）で昨年の東京パラリンピック、それに続く全米オープンで優勝し、ゴールデン・スラム（テニスでグランドスラムを達成し、同年にオリ・パラで金メダルを取る）の偉業を達成した、ディラン・アルコット選手を紹介します。

昨年12月、アルコット選手を公邸に御招きして、ゴールデン・スラム達成のお祝いの会を行いました。忙しいスケジュールの合間の一時、リラックスした中で和食を楽しんでもらいました。



メルボルン在住のアルコット選手は自分で車を運転して颯爽と公邸に現れました。運転席横で車椅子を組合わせて、サッと玄関へ。そして、東京パラリンピックで獲得した金メダルを見せていただきました。ずしりと重い金メダルは世界一を極めたアスリートだけに与えられる栄誉。東京パラリンピックの表彰台でアルコット選手がこれを手にしたとき、これまでの様々なことを思い起こしながら感動されている様子を目にして、私も大変感銘を受けました。その時に金メダルをアルコット選手に手渡ししたのは、東京オリンピック・パラリンピック組織委員会小林麻紀広報局長（当時）。外務省から出向していた私の同僚でした。

アルコット選手にそのことを話すと、「よく覚えていますよ。嬉しかったよ。」

と笑顔で答えておられました。

アルコット選手は、若い世代の育成にも力を入れておられます。自分が模範となって、子どもたちに夢と勇気を与えることを使命とされているように思います。東京パラリンピックでダブルス決勝の際に途中で雨が降り出し、試合は中断。雨が上がり、タオルでコートを拭くボランティアと一緒にアルコット選手がコートを拭いていた姿は広く世界中に配信されました。

今年、アルコット選手は引退すると宣言されています。現役を退いたら、また大好きな和食を食べに公邸にお越しいただきたいです。彼には今後も末永く日本と豪州との架け橋となってもらいたいと思います。

島田順二